

特許庁
実用新案公報実用新案出願公告
昭34-8805

公告 昭34.6.9 出願 昭32.2.28

実願 昭32-8479

考案者 吉田武彦
同人 加賀弘
出願人 横浜謾製造株式会社
代理人 弁理士 大西冬藏東京都港区芝田村町5の9横浜謾
製造株式会社内
同所
東京都港区芝田村町5の9

(全2頁)

自転車又はモーターバイク用可撓性タイヤ

図面の略解

第1図は本実用新案可撓性タイヤの断面図、第2図はその針金ビードの断面を示している。

実用新案の説明

針金ビードを有する自転車タイヤ又はモーターバイク用タイヤでは普通ピートに単条又は複条の鋼線を使用し、その太さは単条の場合直径約1.8mm(15番線)、複条の場合直径約1.0mm(19番線)となつていて。かような針金ビードのタイヤではタイヤを車輪リムに嵌め又は外す際、タイヤを使用するとき他物にぶつけた際にビード部に曲りを生じ、タイヤの寿命を短縮する。又タイヤを輸送する際梱包容器に大きな空間を要し、牽いて輸送費や保管費の累むのを免れない。

本実用新案はタイヤビードに可撓性の1本又は数本の鋼束を用い、この鋼束は極めて細い多数の素線を撚つたもので作られていて、自由に変形されうるが外力が除かれれば元の形に戻る利点があり、輸送又は梱包の際にも折り畳みができる、在来のものの欠陥を除いたものである。

本実用新案を図面について説明すれば、第1図においてタイヤ1はトレッド2、カーカス3及び

ビード4からなりタイヤ1の内側にはチューブ5を挿入し、このタイヤをリーム6に嵌めている。チューブ5にはバルブが見えられ、これから空気をチューブ内に注入してタイヤ1を脹らませる。

シードワイアは可撓性の鋼束からなり各長鋼束は極めて細い。たとえば直径0.15乃至0.3mm程度の数本の素線を撚られた集合よりなつていて、これが又数本撚り合わせている。第2図はこの鋼束の断面で、素線8を数本撚つた撚り線9がその中心の撚り線10の周囲に再び撚り合わされたものからできている。ビードワイア7はかように数十本の素線8が何回にも撚り合わされているためタイヤビードを用いたタイヤでは自由に変形されると共に、元の形に戻る利点がある。

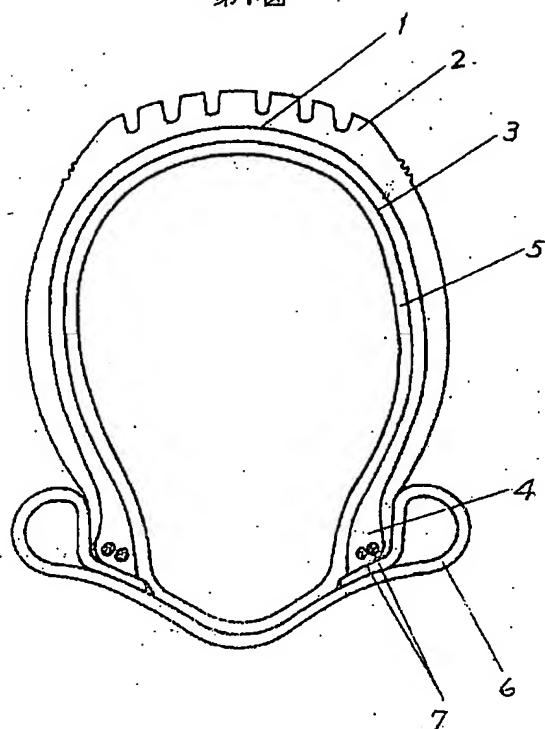
登録請求の範囲

図面に示すように、ビードワイアが直径0.15乃至0.3mm程度の数本乃至数十本の細き鋼素線8を撚り合わせてなる鋼束7を具えている針金ビードを有する自転車又はモーターバイク用可撓性タイヤの構造。

(2)

実公 昭 34-8805

第1図



第2図

